

水田の一年生雑草アゼガヤの東進
—東日本での目撃情報—

元(公財)日本植物調節剤研究協会
技術顧問

森田 弘彦

一年生イネ科雑草のアゼガヤ (*Leptochloa chinensis* Nees 図-1) は、日本では近畿・中国・四国地方と九州地方で水田の雑草として知られてきた。「植調」誌にも児嶋清氏 (36(8),2002) や住吉正氏 (44(4), 2010) の解説記事がある。近年は、上記

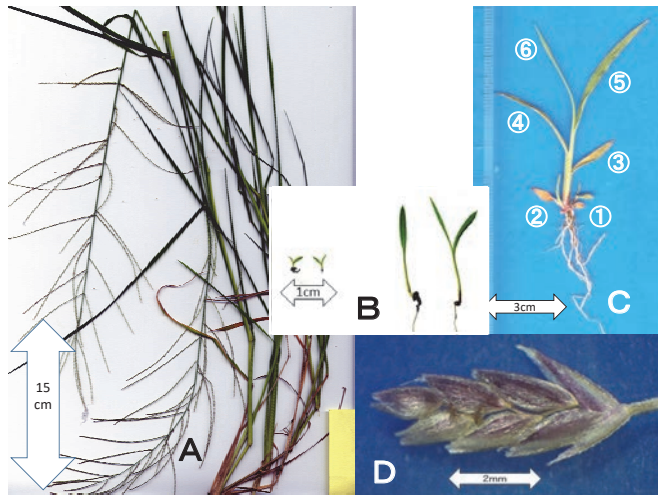


図-1 アゼガヤの形態 (A: 全形, B: 2葉期の幼植物・左の2本, 右2本はコヒメビエ, フィリピンのルソン島産, C: 6葉期の幼植物の葉順・金沢市産, D: 小穂・牛久市産)

の範囲にある岡山県でも目立ってきたようで、植調協会岡山研究センターがアゼガヤの生態と防除試験に着手した。

福岡県では、アゼガヤ発生水田の対水稲作付面積比率が約30% (2010年) と数値化されているものの、他の府県では判然としない。児嶋氏は、「・・・しかし、『植調』誌に掲載された地域における雑草発生状況に関する報告でも関東、近畿・中国・四国地域、兵庫県では図表中に『アゼガヤ』の記載はあるものの、本文に具体的な記述がない (2002)。」と指摘した。関東地方の某県の除草剤試験担当の方から「アゼガヤが〇〇県で増えていますよ。」と聞いたのは、1990年代の後半、筆者がつくば市に勤務していた頃であったが、自分で確かめる機会はなかった。最近、「関東地方ではどうなっているのですか?」と問われたこともあり、筆者の目撃記憶などを頼りに、東日本の水田におけるアゼガヤの状況把握を試みた。

1975年から2003年までの期間について、関東・北陸・東北地方の県単位の植物誌などでのアゼガヤの記載の有無を抽出した (表-1)。北陸・東北地方をはじめとする10県ではアゼガヤの記載はなく、これを記載した県のうち、埼玉県では特記事項がないものの、群馬県・千葉県・茨城県・長野

表-1 1975～2003年にかけての関東・北陸・東北地方の植物誌などにおけるアゼガヤの記載

県名	文献名	刊行年	記載の概要
神奈川	神奈川県植物誌 2001	2001	水田、池沼のほとり、湿地に生える。「神植誌88」の調査時には横浜市金沢区と小田原市下曽我で採集されたのみだったが、今回の調査で新たに10地点で見つかり、県内ではさほど稀ではないことがわかった。
埼玉	1998年版 埼玉県植物誌	1998	県内の台地・低地の水田の畦など (分布図: 西部山岳地帯を除き、東部平坦部に分布の点)
群馬	群馬県植物誌	1987	産地: 桐生市など各地。備考: 畦、湿地。ややまれ。
栃木 (宇都宮市)	宇都宮市の水辺の生物 I 一池沼・湧水・湿地一	1996	記載なし
	宇都宮市の植物	2001	記載なし
千葉	新版 千葉県植物誌	1975	松戸 (1933: 文献)、市原、館山
	千葉県の自然誌 別編4 千葉県植物誌	2003	県内では少なく、南部にはみられない。用水路や池の岸辺に生育。
茨城	茨城県植物誌	1981	まれ (常陸太田市、加波山)
山梨	山梨の植物誌	1981	記載なし
長野	長野県植物誌	1997	標本: 長野市松岡 分布: 北部、県内では上記の標本のみ。
福井	福井県植物誌	1998	記載なし
石川	石川県植物誌	1983	記載なし
富山	富山県植物誌	1983	記載なし
新潟	新潟県植物分布図集 ~第20集	2000	記載なし
福島	福島県植物誌 1987	1987	記載なし
宮城	宮城県植物目録 2000	2001	記載なし
山形	新版 山形県の植物誌	1992	記載なし
秋田	秋田県植物分布図	1997	記載なし



図-2 関東地方でのアゼガヤの目撃情報
(A: 埼玉県, B・C: 茨城県)

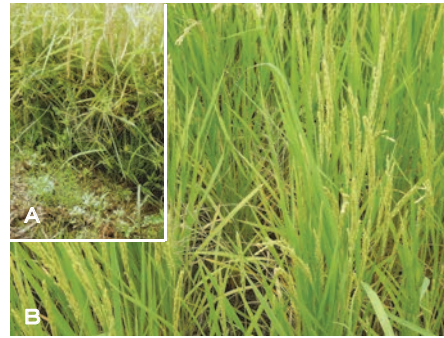


図-3 新潟県でのアゼガヤの目撃情報
(A: 旧与板町, B: 長岡市)



図-4 秋田県でのアゼガヤの目撃情報(にかほ市)

表-2 東日本におけるアゼガヤの目撃情報(筆者による)

地方	県	観察地(場所:年)	
関東地方	茨城	取手市吉田(畦畔:2017)	龍ヶ崎市大徳町(畦畔:2018)
		牛久市(研究所:2015)	
	埼玉	行田市(直播田:2015)	
	長野	須坂市(研究所:2018)	
北陸地方	石川	金沢市千田町(畦畔:2018)	
	新潟	三島郡与板町(現長岡市、移植田:2004)	長岡市寺泊(直播田:2017)
東北地方	秋田	にかほ市芹田(直播田:2011)	

県では「まれ、ややまれ」とされ、神奈川県では10年間で「見つかる地点が増えた」としている。おおよそ2000年くらいまでに編集・刊行されたこれらの資料の範囲では、アゼガヤは北陸・東北地方の各県には分布せず、関東地方では神奈川県や長野県での記載のように、「目につくようになってきた」状態にあったといえよう。

情報としての規模では上記の諸資料には及びもつかないが、筆者のアゼガヤの目撃体験を表-2に示した。関東地方での目撃情報は、上記資料の範囲内であったが、埼玉県では乾田直播田に繁茂しており、茨城県南部では水田内での生育は確認できなかったものの、穂で畦畔を覆う様は「畦ガヤ」そのものを思わせた(図-2)。北陸地方では、新潟県中越地方の移植田(与板町:2004)と湛水直播田(寺泊:2017)で観察した(図-3)。新潟県では、上越の妙高市(「花かおる妙高原」田地野政義 2004)や下越の新潟市(「新潟県越後平野の水田地帯に出現する水湿生植物—土地利用タイプ間における種数と種組成の相違—」石田真也ほか 保全生態学研究 19, 2014)の文献にも収録され、後者では水田環境ごとの出現地点数/調査地点数が、耕作田:2/68, 休耕田:0/68, 土水路:4/56, コンクリート水路:4/65と記録された。新潟県では、アゼガヤが密度は低いものの全県的に発生していることが伺える。石川県金沢市では畦畔で目撃した。東北地方では、秋田県の日本海側南端に位置するにかほ市の

湛水直播田で目撃したが(図-4)、時間をかけた十分な観察ではないので、定着しているかどうか定かではない。農業の研究機関では植物材料の人為的な移動が多く、長野県須坂市にある長野県農業試験場の水田試験圃場に生育するアゼガヤは移入されたもので

(図-5A)、同農試のS氏は「自分が持ち込んで試作したが、定着しているとは思わなかった。」とおっしゃった。茨城県牛久市の植調研究所の試験圃場にあるアゼガヤも持ち込まれたものと思う(図-5-B)。

個人の限られた場面での目撃情報ではあるが、「今後、転換畑面積や直播水稲栽培面積の増加に伴い発生が広域化する可能性が高いので、関係者にはその動向に注目して頂きたい。」との児嶋氏の指摘どおりに、アゼガヤは東日本の水田に進出しているようである。

水田ではないが、長岡市坂之上町と東京都台東区清川の界隈の空き地でアゼガヤを採集した(図-6)。いずれも、水稲除草剤適用性試験成績の地域検討会の会場に比較的近い場所である。ひょっとして、西の方のアゼガヤ分布地からの出席者がこのあたりを散歩でもして……? まさかねエ

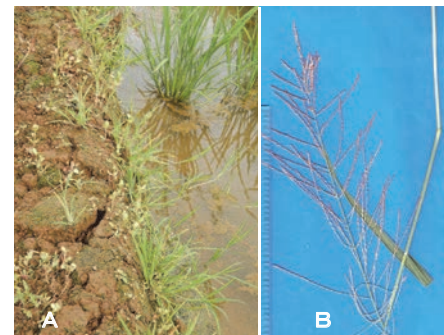


図-5 研究機関に発生するアゼガヤ(A: 長野県農業試験場・長野県須坂市, B: 日植調研究所・茨城県牛久市)

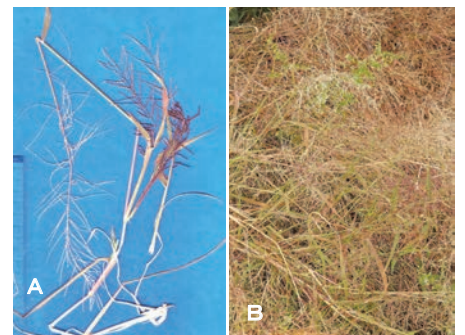


図-6 市街地の空き地に発生したアゼガヤ(A: 新潟県長岡市, B: 東京都台東区)